



アクテノン

NO.75

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ

■ 僕とお芝居



劇団あおきりみかん 其の式拾六
「湖の白鳥」ミュージカル
'12年5月31日～6月3日
愛知県芸術劇場小ホールにて

こんにちは、劇団あおきりみかん松井真人です。

お元気ですか？こちらは元気です。最近ようやく俳優という仕事に楽しく取り組めるようになってきた、そんな毎日です。

こうやって改めて書くのもなかなか照れくさいですね。

僕の人生の目標は、良い芝居を作ることです。僕にとって、もう思い残すことなんてないっていうのが作りたいんです。

お芝居を10年以上やって、上手くなりたいという欲求は留まることなく加速度的で、僕はただ俳優としてお芝居を楽しみたいのです。

最近は台本を読む事と演技のツヤについて訓練しています。

演出家や共演者と集まってする稽古まで、いかにお芝居を面白くするか頭をフル回転です。

金曜と月曜ではおんなんじセリフ言うのでも違うし、楽しいや怖いといった状態は演じられないし、ついついセリフを自分の感情や状況を説明するために言つてたり。他人の書いた言葉を言うのは一苦労だから、いろんな技術を手に入れられるように稽古しています。言葉の5つの要素、肩甲骨の位置、呼吸の仕方、心の動く一瞬のためにセリフを捨てて捨てて、ただアナタとワタシの心が動くように台本を読んでいます。

お芝居って一人で作れないから難しくて面白くて、人生でこんなに上手くいかない事もないってくらいやっかいで楽しい。

お芝居ってコミュニケーションゲームだと思うのですよね、僕。

現代社会で人と人の間には優しい嘘が存在するから僕たちは優しく苦労してて。

「言葉はいつも想いに足らない」というのがとても真実だと思う。

お芝居が自分の中には無くて、ただアナタとワタシの

松井 真人（劇団あおきりみかん 俳優）

間に存在するとするならば、その関係性の変化こそ演劇で、そこを動かす為に僕たち俳優は存在しているのだと思うのです。僕が感動するのはいつも人と人の間にある心の変化なのです。

好きな人がいたり、これから関わってかなきゃいけない人がいたり、家族がいたり。人とわかり合いたいという欲求と、わかってもらえないという葛藤は不变なんじゃないでしょうか。

これは今まで俳優仲間にしか喋ったことのない秘密なんですが、実は僕…あと100万年とか地球が回って、人間が進化するのだとしたら、僕は次は尻尾が生えてくると思います。犬のように隠しようのない、無意識に感情の溢れ出すようなツールが次にくる進化だと思うんだよね。

こんなにも誰かに解つてもらいたくて、誰かを解りたいと思って、心が千々に乱るのは進化の痛みなんじやないかなあと信じています。分かり合っちゃった演劇どうなるのかはわからんんですけど(笑)

僕らの親の世代くらいがきっと日本で初めて戦争を体験せずに一生を終えることのできる世代だとすれば、せめて自分たちの孫の世代くらいまではそうなれるようにお芝居したい。

こんな演劇に没頭できる自分たちの世代を作ってくれた先人たちに感謝して、それをきちんと繋いで行きたいです。個人的な事なんだけど僕が芝居が楽しめる事を両親はじめ家族に感謝しています。お父さんお母さんはあちゃんありがとうございます。

長生きしたいと思うのも、お芝居があるからで、ぼくの人生の目標は良い芝居を作ること。

毎年毎年目標を立てて、稽古しています。野球選手が素振りをするように、毎日薄皮を重ねていくように自分を高めていきたい。

お芝居でみんなが幸せになりますように、僕の好きな人たちが僕より幸せでありますように。

トピックス

■ たくさん的人に観て貰いたい一心で



「日本語私辞典」
'12年3月10日～11日
下北沢「劇」小劇場にて

平塚 直隆（劇作家・演出家・俳優／オイスター所属）

最近よく「乗ってますねえ」とか「忙しいですねえ」とか言われますけど、ホントに乗ってるのはハイハイの岩井さんみたいな人でして、ホントに忙しい人はこんなにお腹ふよぶよしてませんねきっと。以前こちらのエッセイに、どれだけ賞を貰ってもオイスターの観客動員数がそんなに増えない、という事を書かせて頂いたのですが、未だにそんなに増えないのでまた書きますね。まあ確かに賞を貰ってるから面白いとは限らない、と思われる気持ちもわかりますが、騙されたと思って一回観に来て御覧なさいなオイスター、そしたら「ホントに騙された！」と憤慨される方も居りますけど、それは素直に謝るしかないんですけど、こちらはたくさんの人に観て貰いたい一心でやってますんで何卒よろしくお願ひ致します。今年はようやく劇王になります(合戦君のオチも美味しかったのですが、そこはまあ成り行きで…), 続けて若手演出家コンクールで最優秀賞を頂きました。劇作家協会新人戯曲賞と合わせると、これで新人やら若手と名のつく劇作家と演出家の賞はダブルで頂いた事になるようです。次は岸田戯曲賞なんですがあれは名古屋でやっている限り獲れそうにない

